平成２６年度 第６回 宗像市次世代育成支援対策審議会

議事録（要点筆記）

期　日：平成２６年１０月２８日（火）
時　間：午後６時３０分～午後８時３０分
会　場：宗像市役所　本館３階　第２委員会室

審議会委員					
横山　正幸	○	石山　さゆり	○	小方　信二	○
衛藤　蔦子	○	中里　留美子	○	中山　秀樹	―
吉永　敦子	○	高杉　洋史	○	薄　俊哉	○
釜瀬　計	○	今西　美樹	○	高畑　真希子	○

事務局				
柴田　祐治	中野　万由美	久保　謙司	秦　康典	早川　靖彦
瀧口　啓太郎	中村　修	姫野　恵理子	賀耒　悦雄	

配布資料
・第３章　本市の子ども・子育てを取りまく現状
・第４章　計画の基本的な考え方
・第５章　計画の内容
・第６章　子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について
・第７章　計画の推進

１　会長挨拶
２　前回議事録の確認
⇒承認
３　報告事項　なし
４　協議事項
「宗像市子ども・子育て支援事業計画」について
＜第３章　本市の子ども・子育てを取りまく現状＞
（事務局から説明）
・第３章は、本日確定したいと思う。意見をお願いする。
・質問だが、SNS を使って子育て情報の取得を行っているかどうか、といったアンケートを実施しているか？
→特にないが、インターネットについては、一部ある。
・質問の主旨は、実施アンケートに最近のトレンドが抜けていると言われないかとの懸念をしたためである。
・一時預かりについての意見が多かったという記述があるが。
→これには、いろんな制度に対するものをすべて含めている。
→多いとか少ないの基準がないため、ここは、“などの意見もあった”に修正したい。

・自由意見の項目で“学校教育の充実”があるが、どこが充実したら良いかわかれば参考になると思う。
→関係するジャンルの意見をまとめて“学校教育の充実”としている。後日資料を配布する。
・カテゴリーとして、まとめているので、内容としては、いろいろあるということだ。
・それだけ保護者の期待が多いということだろう。
・第３章について、必要な個所が修正されているので良いと思う。
・一時預かりに対する支援については、現行制度を認識した上での意見か？
→制度のことは知らないまま回答しているかもしれないと思う。周知も必要と思う。
・タウン紙、インターネット情報については、若い世代は良く知っている。
・“核家族化”についての設問はあるか？
→世帯に関する項目がなく、わからない。
・障がいを持っている人に対する内容の質問はあるか。
→特にない。
・他に意見がなければ、第３章については、この案を承認とする。
　⇒計画案（第３章）について、承認。

＜第４章　計画の基本的な考え方（基本理念・基本方針）＞
（事務局から説明）
・産むことは大事であるが、“マタニティハラスメント”の内容はあるか？
・“すべての家庭が安心して子どもを産み育てられる社会”といった中に含まれるのではないか。
・産み育てるとは、２０代から３０代が対象か？
・必ずしもそうではないと思う。乳幼児から小学校、中学校、高校へとステップしていくことになるからだ。
・他に意見がなければ、これで第４章については、この案を承認する。
　⇒計画案（第４章）について、承認。

＜第５章　計画の内容＞
＜第６章　子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について＞
＜第７章　計画の推進＞
（各章について事務局から説明）
・第５章に子育てネットワークとあるが、具体的には、どのようなものか？
→今回は、イメージとして提案をしている。
・中高生の居場所について、学校に行けていない子の内容は、あるのか？
→社会的な問題にもなっているが、今後の検討事項だと思う。
全体構成については、前の計画と大きく変わることはないが、実施する事業については、ある程度整理したいと思う。
・構成については、この案を承認したいと思う。
　⇒第５章～第７章の構成について、承認。

＜自由意見＞

・学校に通えない子どもや特別支援の子の対応について、学校では、アップアップの状態であり、行政の支援が必要と感じる。

・のぞみ園（発達支援センター）はとても忙しいと思うが、委員の共通認識としてのぞみ園に関するデータがあれば、いいと思うが。

→のぞみ園では、幅広い取り扱いをしており、特別支援に対して線引きが難しく、データをすぐに取り出すことができない。コメントを入れての示し方にはなるだろう。

・小中一貫教育では小学校が２校あるところは難しい。

→この審議会で子ども・子育てにかかる計画について審議しているが、学校に関わるところは、現在教育委員会で「学校基本計画」策定に取り組んでおり、その中で内容が出てくると思う。

・小中一貫教育は、第１期を終え、第２期から家庭・地域との繋がりを深めながら進んでいる。

・宗像の教育は、更に変わっていくことだろう。

・メディア教育の対象は、今の計画では乳幼児が対象となっていないが、この問題では、乳幼児の時期は、とても大切だと思う。

・スマホ依存症が急激に増えている。学力とも関係があり、その意見に同感だ。
グローバル人材育成については、海外派遣とかの事業もあるが、我がまちの歴史を知るとか他の人とのコミュニケーションができる人間を育てるとかが必要である。発達段階を踏まえ、文章で物を言える人間、会話ができる人間を育てる。
居場所づくりについては、場所だけではなく、活動内容として子どもの遊び場を作る必要がある。また、体験活動もプログラム化された体験では意味がない。
地域で支える状況が薄れているし、親が親になるまでに乳幼児に関わる体験がないため、わからないと思う。体験学習が必要で、事業の中味、質が大切となってくる。

・中学生が乳幼児にふれあう機会があるが、その場合関わる大人も大切である。人に対する理解の深め方も大事になっている。

・赤ちゃんに接する機会がなく、親になるとしても親になる前の講座があり、心の準備は、市の活動に参加すればわかること。赤ちゃんが生まれるまでに赤ちゃんにふれあえばもっと良いと思う。
グローバル人材育成で、外国の文化に触れる機会があればよいが、自分のまちの文化も知る機会も必要である。

・“都市ブランド”が突然出てきている印象があるので、どこかで見出してほしい。

→“都市ブランド”は、まちの戦略事業として出している。あいさつ文（冒頭）の中で市の意向といった形で記載したい。

・第 3 章は、ニーズ調査の結果と分析となっているが、分析結果から重点事業とかに、どのようにつながっていくのか。夢を語っても良いのか？

→分析結果などから市が取り組む事業を選択するので、その中から今後 5 年間の重点施策とするものを選択していただきたい。

・事業の質が求められると思うが、サービス充実の上で人材不足の課題があり、保育所での人材確保は難しくなってきている状況がある。

・教育保育の現場は、深刻な状況である。人材問題は大事であり、大きな課題であると思う。

＜今後のスケジュールについて＞

・次回（第７回）は、平成２６年１１月２１日（金）午後６時３０分から開催する。（主に重点施策について審議）

・第８回は、平成２６年１２月１５日（月）に開催とする。（答申案について審議）